

杉戸町立杉戸中学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)		自己評価		改善策	学校関係者評価	
			評価	達成状況 (成果・課題)	評価	意見・要望・支援策等			
確かな学力	基本を定着させる。 学習指導を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の約束10か条」の徹底により、授業規律の確立と定着。 朝読書の完全実施 小テストや単元テストの実施により、基礎基本の定着と家庭学習の定着を図る。 個に応じた補習学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート (授業の約束10か条) AB評価9割 (ABCD 4段階評価) 朝読書の実施100% 定期テスト2週間前から朝学習の導入 CBTによる小単元テストの導入 (理科) 定期テスト前に各学年で実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の約束10か条、朝読書 達成率9割以上。 定期テスト前の補習については全学年で実施することができた。 家庭学習の取組については、「取り組んでいる」との回答が生徒で (73.7%→69.9%) と、昨年より低下した。要所の1つとして、本校独自の家庭学習ノートを廃止したことがある。 本時の課題の設定はできている。振り返りについて不十分な教科があるので、その在り方や確実な確保が必要である。 教員のICTの活用場場は確実に増えた。今年度は、その活用法も一層工夫するために、ICT担当2名を愛知県の実践校に派遣し、その成果を共有した。中堅教諭質向上研修や学方向プロジェクトの場でも、他市町の先生方に自信をもって提案できる授業実践を、多くの教員が行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書については質の向上を徹底していく。 定期テスト前の放課後の補習や朝勉強など、生徒の学方向につなげていく。 授業の振り返りについては、十分な時間の確保と自身の学びの蓄積を実感できる形を整えるよう研修を深めていく。 家庭学習を意欲的に取り組めるよう、課題の出し方を一考する必要がある。 ICTの活用が増したが、町内全体で比較すると本校は活用度が低い。また、「効果的な」活用という点では、教員は (66.7%→78.4%) となり、昨年度より活用場場が増えた。保護者の皆さんも同様に高い結果 (74.8%→80.8%) となったが、引き続き、より「効果的な」活用法、活用場場を追究していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の重要性を考えさせることで、これまでの家庭学習ノートに代わる方法を生徒自らが考えるようになることよい。 学方向を平均点だけで測ることなく、生徒自ら勉強する雰囲気作りができたら、なおよい。 家庭学習の取組について数値が低下したとのこと、家庭学習ノートの廃止の功罪をよく見て、改善案を具体的に検討する必要がある。ICTの利用はできないか? ICTについては教員の活用度に対して負荷が増えているか注意する必要がある。経年劣化、故障の事例もあることから、先を見据えて教委や自治体などに今後についてアピールしていく必要がある。 スマホをはじめ、動画等で情報を受けとることが多いので、学校では文字や文章から読み取る力を強化することが大事になるだろう。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 杉戸町授業スタンダードを基にした効果的な授業の実践。 新しい教育観に立った授業改革。 自由進度学習の研究と実践。 県学力学習状況調査の結果の分析から指導力向上に向けた教科会の実施 リーディングスキルを高める取組。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な本時の課題設定と振り返り実施100% 教科ごとに県学調の結果を分析し、課題、改善策を検討し実行する。(2年目) リーディングスキルを意欲した学習課題の提示 (全教科)。 ICTの活用、個別最適な学び・協働的な学びの実践の視点に立った授業相互参観。(2年目) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各部会を通じて杉戸中が抱えている課題を確認し、足並みを揃えることができた。教育相談部会については、今年度よりSSMも出席、サポートいただいた。 いじめアンケートについて、具体的な記述ができるよう内容を刷新し、これまで毎月毎月実施、早期発見・早期対応ができた。 ALルームを新設したことによる多くの成果があった。不登校数は39人。不登校であっても、ALルームに積極的に登校し学習に励んだ。給食を含め1日をALルームで過ごすことで、生活リズムが整った者もいた。個に応じたスマールマップを設定したり、さわやか相談員との定期的な面談の実施が今後の課題である。 教育活動アンケート結果は以下のとおり 「仲間との協力やお互いに気遣う気持ちをもって学校生活を送っているか。」 保護者R5:94.8%→R6:95.6% 生徒R5:95.9%→R6:97.8% 	<ul style="list-style-type: none"> 担任任せになることなく、学年全体で関わりを持つ体制づくりをより強化していく。 SNSによるトラブルは引き続き多く、また日常生活における人間関係のトラブルもあつた。保護者にも、SNSのトラブルについて知ってもらうために、各学年で保護者会の折にSNSの適切な利用法について学ぶ機会を設定する。 長欠傾向にある生徒について、教育相談担当及び学年担任とより一層の連携した対応を心がけていく。また、他機関との適切な連携体制を引き続き行っていく。 教育活動アンケート結果については、他者を思いやる気持ち、人に優しくできる心豊かな生徒の育成に向けて、引き続き生徒の自主的な活動を計画的に設けていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「ALルーム」との連携の成果が出ている。 「ALルーム」の開設により、よりきめ細かに生徒に対応できるようになったことは成果。他者との関わりを重視した学校生活を送っている生徒が多いこともよい。 不登校生徒とその保護者に対する対応が担任によってまちまちな感じがある。不登校の原因は様々だろうが、最低限の対応策については学校の指針に盛り込んでほしい。 働き方改革と並行して、いざというときに助け合えるような教員同士の信頼を深めることが最後には大事かと思う。 SNSトラブルについて、保護者・生徒への啓蒙を進める一方で、学校の責任についての線引きをはっきりさせることも必要かと思う。すべてを先生方が担うのではなく、外部講師や機関への協力を仰ぎたい。 不登校への取組については、「ALルーム」の新設等、大変な努力があり評価している。春日部市の総合振興計画の市民評価では、対応各組織の連携強化及び、窓口の見える化についても指摘された。登校することがゴールではないことにも気を付けて、継続して取り組んでほしい。 個の尊重と協調性の育成を並行して行いたい。また、協調と同調の違いを理解させたい。 	
豊かな心	基本的生活習慣を定着させる。 生徒の人権尊重意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> めざす生徒像「時を守り、場を清め、礼を正す生徒」「当たり前のことをやり抜く生徒」の育成に向けた学年・学級指導 「生活の約束10か条」による生活習慣の確立・定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級指導の状況 主任会、生徒指導部会を通じた情報交換、指導体制の統一 生徒アンケート 「生活の約束10か条」AB評価9割 (ABCD 4段階評価) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 心身の居場所がある学年学級経営 ローテーション方式による道徳授業の展開と生徒の道徳性の実態把握により道徳実践力を高める。 学校、学年での不登校生徒への対応、連携。 さわやか相談員による1学年生徒全員面談。 支援学習の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめのない学校生活を送るためのアンケートの毎月実施 新規不登校生徒の減少 ALルームとの連携 道徳教育の充実 スマイル賞の授与者増加 生徒会による人権を考える活動を企画、実施 共生社会に向けた意識 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の中心とした交通安全指導については、教員による下校指導の継続、そして保護者一人一人の協力が求められるよう、適時情報発信を。 登下校を含め、自転車による交通事故が発生したことは残念であるが、継続的に安全教育を行ってほしい。 自転車安全教室を年3回実施は、よい。 危険箇所には人が立つだけでなく、注意を向けるようなアイテムの設置を警察や町と連携して検討できないものか。一方生徒には、「優良ドライバー表彰」など伸ばす意識喚起も考えられよう。 部活動については適正に運用されているようだ。地域移行の話はどうなっているのか。
		<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通ルール遵守 自他の命を大切に安全指導の充実 PTAによる安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故ゼロ 自転車安全教室 (年3回) 教職員による下校指導 (年14回) 安全マップの効果的活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の学年職員による立哨指導を通年で実施した。 う歯治療率90% 体育や部活動における基礎体力の向上 研究授業での成果と課題の検証 (12月) 部活動の町の基本方針に則った活動状況 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車安全教室を年3回実施した。一方で、自転車の一時停止が原因での交通事故が数件発生し、今後の指導法や機会について再考の余地がある。 テスト期間を中心に教職員による下校指導を行った。前年度までにPTAのアンケートで記入いただいた危険箇所を中心に指導を行った。 毎朝の学年職員による立哨指導を通年で実施した。 う歯治療率90% (12月末現在)。例年より低い数値となった。3学期も継続して指導する。 部活動は町、及び学校の基本方針に則り、全ての部活で徹底することができた。 ダンス指導法の研究発表を12月に実施。本校のダンス指導を全員の先生方に提案、ご指導を仰いだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校のマナーについては、特に自転車通学者の安全指導が課題である。安全担当による、地区を回ったピンポイントの指導を定期的に行っていく。 教職員による下校指導については、特に自転車の一時停止が求められる地点に範囲を広げ、計画・実施していく。併せて、PTAの一人一協力においても安全指導の重点化について協力をお願いしていく。 ダンス指導法の研究発表については、体育科で反省点等を協議し、次年度の指導内容に生かしていく。
健全な学習意欲と体力を向上させる	安心・安全な学習環境	<ul style="list-style-type: none"> 歯磨き指導や治療動告等にう歯治療の推奨。 基本的な生活習慣の習得指導。(就寝起床時刻、朝食の摂取等) 体力向上及び健康教育。 県委嘱のダンス指導法の研究・発表 休養を確保した部活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行とHP (すぐる) の毎日更新 (保護者アンケートの情報発信で3.7以上) キャリア教育における地域人材の活用 持続可能なPTA新組織体制確立 関係機関の利用状況と生徒の姿容 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行と毎日のHP更新は、保護者で (88.8%→93.6%) と満足度が向上。自由記述においても便りや「すぐる」のタイムラインによって学校の様子を知ることができたこと回答されていることから、かなりの効果があったと思われる。(平均は3.5) キャリア教育では2年生の職場体験学習が予定通り2日間行われ、充実した取組となった。また、東京特別学習も新設され、地域はもちろん学習のフィールドを広げた独自の学びの場が展開された。 PTA活動は組織の見直しを奏功し、概ね順調と捉えた。また、除草作業において地域の方 (シルバー人材センター) にも協力を得られ環境美化に繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HP更新については、多くの方から高い評価をいただいた。引き続き内容の充実にも努める。各種便りについては、働き方改革からデータでの閲覧の向きもあるため、他校の状況も鑑み、紙ベースの発行の是非を検討していく。 職場体験学習の時期を再度検討し、事前・事後の学習も含めて一層充実させていく。 PTA活動については改革後の体制が整ってきたので、引き続きより良い活動を検討・推進していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、メール配信による頻度の高い情報提供があり、流れや動きが分かりやすかった。 学校運営協議会メンバーは個々に活躍されているので、ゲストティーチャーとしての活用を期待したい。 学校での日常を知れて、保護者の関心も高いだろう。 手紙が届かないことがあるので、「すぐる」の活用はとてよい。 数地内の環境整備はPTAと一層の連携を。 職場体験や個別学習など、実施したことがキャリア教育の立場、および学校教育の立場にどのようにプラスになるのかの評価も、今後の課題と思う。 PTA改革が成功していることは喜ばしい。自主的に活動する保護者の背中を見て、生徒が伸びられるように、活動や苦勞を伝えることも考えてはどうか。 情報は速さと正確さを引き続き心掛けながら、発信してほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> 歯磨き指導や治療動告等にう歯治療の推奨。 基本的な生活習慣の習得指導。(就寝起床時刻、朝食の摂取等) 体力向上及び健康教育。 県委嘱のダンス指導法の研究・発表 休養を確保した部活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行とHP (すぐる) の毎日更新 (保護者アンケートの情報発信で3.7以上) キャリア教育における地域人材の活用 持続可能なPTA新組織体制確立 関係機関の利用状況と生徒の姿容 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行と毎日のHP更新は、保護者で (88.8%→93.6%) と満足度が向上。自由記述においても便りや「すぐる」のタイムラインによって学校の様子を知ることができたこと回答されていることから、かなりの効果があったと思われる。(平均は3.5) キャリア教育では2年生の職場体験学習が予定通り2日間行われ、充実した取組となった。また、東京特別学習も新設され、地域はもちろん学習のフィールドを広げた独自の学びの場が展開された。 PTA活動は組織の見直しを奏功し、概ね順調と捉えた。また、除草作業において地域の方 (シルバー人材センター) にも協力を得られ環境美化に繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HP更新については、多くの方から高い評価をいただいた。引き続き内容の充実にも努める。各種便りについては、働き方改革からデータでの閲覧の向きもあるため、他校の状況も鑑み、紙ベースの発行の是非を検討していく。 職場体験学習の時期を再度検討し、事前・事後の学習も含めて一層充実させていく。 PTA活動については改革後の体制が整ってきたので、引き続きより良い活動を検討・推進していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、メール配信による頻度の高い情報提供があり、流れや動きが分かりやすかった。 学校運営協議会メンバーは個々に活躍されているので、ゲストティーチャーとしての活用を期待したい。 学校での日常を知れて、保護者の関心も高いだろう。 手紙が届かないことがあるので、「すぐる」の活用はとてよい。 数地内の環境整備はPTAと一層の連携を。 職場体験や個別学習など、実施したことがキャリア教育の立場、および学校教育の立場にどのようにプラスになるのかの評価も、今後の課題と思う。 PTA改革が成功していることは喜ばしい。自主的に活動する保護者の背中を見て、生徒が伸びられるように、活動や苦勞を伝えることも考えてはどうか。 情報は速さと正確さを引き続き心掛けながら、発信してほしい。